



▲がらんとした前庭



家にいるより学校へ行きたい

退屈な休校生活、結構忙しい？
休校にさよなら、来週は学校へ

課題→読書→お菓子の
くりかえし

今日から棚からぼたもち式に転がり込んできた休みが始まった。平日はいつも6時起き、きの僕であるが、本日は9時10分前に起きた。休みだからといって生活のリズムを崩すのは良くない。いつも連休

前は思うのだが、どうしても怠けてしまう。だらけてしまふ。体が起き上がらなくなってしまう。布団から出られなくなってしまう。話が少しずれたが、どのようなことをしていたかという、ほとんど机に向かっていた。いつもなら外出するのだが、学校に

「家から離れるな」と言われたのでは仕方があるまい。本を読んだり、課題をやったり、その合間にポッキーを食べて、ミルクティーをすする。勉強をやる以外はまるで専業主婦の午後の過ごし方だ。弟がいたら「お兄ちゃん、一緒にゲームしろ」と遊びの勧誘をし

てくるのだが、弟はフロアティンクススクールに行っている。仕方なく、課題→読書→お菓子のサイクルを繰り返していた。弟が返ってくると、まっさきに一緒にゲームをした。

(1年男子)

新型インフルエンザによる

家にいるより
学校にいたほうが

休校一日目が終了し、一年生数名にメールで話をきいた。学校にいるか、家にいるかどうかが良いかをきいたところ

た。なぜなら、家にいてもすることが少ないからだそうだし、しかし、一年生は今回出された課題の量はとても多いと感じ

外出できないインフルエンザによる休校。誘惑や生活リズムの狂いと戦いながら、フツの東高生が過ごした休校日の一コマをのぞいてみよう。

ろ、「学校にいるとき」という答えがで



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

じる人も多い。(1年男子)
新聞部では、この記事にあるようなメールによる休校意識調査を継続中です。集計ができ次第、キマグレ紙上で発表します。

友達からの誘い
でも大量の課題が

最初はインフルエンザによるいきなりの休校に戸惑った私だが、とにかく膨大な量の課題を終わらせないとイケないと思い、家に帰るやいなや勉強机に向かった。しばらく

するとポケットから携帯の着信音が聞こえてきた。他校の友人からのメールだった。メールを開くと「明日空いてる？」という文面。みんなで遊ぼうと計画だそうだった。県下一斉休校ということで、これまで会えなかった友達とも会うことができるからだろう。あまりにも早い計画に苦笑した。ついその誘いに乗りたくなったが、携帯を持つ手の向こう側に見えたのは大量の課題と生徒課だより。すぐさま我に返り、断りのメールを送ったのだった。(1年女子)